

## 第2回生駒市総合計画審議会（第三部会）会議録

開催日時 令和2年8月5日（水） 13：45～15：40

開催場所 生駒市役所 401・402会議室

出席者

（委員）高取部会長、浅間委員、藤尾委員、村上委員

（事務局）増田市長公室長、岡村企画政策課長、藤川企画政策課課長補佐、  
片山企画政策課係員、竹田企画政策課係員

欠席者 なし

議事内容

(1)各小分野の検証

(2)その他

【事務局】（開会宣告、配布資料確認）

以下、発言要旨

No. 212 子ども・子育て支援

【高取部会長】 前回に引き続き、各委員から事前に意見や質問を提出してもらっている  
ので、その内容について改めてコメントをお願いしたい。

【浅間委員】 生駒市は住宅都市なので、一番大切なのは若い人に住みたいと思っ  
てもらうことである。その条件としては、子ども・子育て支援、学校教育があ  
る。大阪から転入してきてもらうことが今後10年で重要になる。企業誘  
致も大事だが、新しい人が住みやすい環境をどうつくっていくか、若い人  
が何を選んで入ってくるのか踏まえて政策を立てる必要がある。

【事務局】 「まち・ひと・しごと総合戦略」では、人口減少をどう食い止めてい  
くか人口動向を見ながら戦略を立てている。生駒市の傾向として、転出は2  
0代前半に多く、転入は30代～40代に多い。エリアとしては、奈良市・  
大阪市・東大阪市からの転入が多い。30代～40代にどう魅力を伝える  
かということで、子ども・子育て支援には力を入れて取り組んでいる。転

入者を増やすことと、現在住んでいる人の定住意向を高めるため、シビックプライドを醸成する施策と両面で展開している。

【高取部会長】 若い世代にとっての生駒市は、自然と都市が融合しており、イメージはいいと思う。市民満足度調査でも数字として結果が出てくるかと思う。定住意向は、そこに家を構えるかどうかで随分違ってくると思う。

【事務局】 一旦生駒市を転出した若い世代にも、また地元を選んで戻ってきてもらえるようにしていきたい。

【藤尾委員】 今は、家を守るために辛抱する時代ではなく、先祖への申し訳なさもなくなってきたので、割り切って家を売ってしまう人も多い。壱分町でも家を売ってしまったところが、マンションになっている。最近の若い人は見映えがいいものや注目されるものを重視し、ボランティアも華やかなことなら頑張る人が多い。ボランティア減少の底辺にもこの考え方がある。また、イベントを開催しても景品をもらえるコーナーだけ参加して中学生の演奏は誰も聴かない、という実態もある。

【浅間委員】 旧村地区でもそうなのだから、新興住宅地の地区ではよりその傾向が顕著だと思う。ただ、生駒市は大阪に隣接していることから過疎化はしないだろう。

【藤尾委員】 昔の家をつぶして建てた建売物件も売れておらず、値段がどんどん下がっている。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、家を買うどころではなくなっている。壱分小学校区は卒業してからも出戻る人が多い。40年前、子どもが多くて生駒南第二小学校ができたが、今子どもの数は減っている。脱ベッドタウンというが、きれいごとではなくなっている。

【高取部会長】 ベッドタウンからのステップアップは、あまり実感がなく、絵に描いた餅のように思える。若者は、ベッドタウンが目的で生駒市にきている。よっぽどの魅力がないと脱ベッドタウンは難しい。

【浅間委員】 若い人も、駅が近いという利便性を重視する志向に変わってきている。

【高取部会長】 近鉄電車で神戸までいけるようになり、なおさらベッドタウンだと思う。

【村上委員】 コロナ禍で在宅勤務などが進む中、保育への影響を知りたかった。何が起こるか分からない時代なので、何かあったときにどこに聞きに行けばいいか分からないと困る。10万円給付の手続きも高齢者はどう申請すれば

いいか分からなかったのではないだろうか。特に一人暮らしの高齢者は大変だったと思う。

【事務局】 小学校休業時には、学童での預かりを午前中から実施したことに加え、学校での受け入れも行い、保育園も閉所せずに対応していたことも補足しておきたい。

【藤尾委員】 生駒市は市民自治協議会がまだ2つしかなく、市民自治が弱いと思う。まず協議会のような形をつくり、地域の特色に合わせてそれぞれ弱いところを住民と行政で力を合わせてやっていくことを真剣に始めないとならない。将来的には協議会のリーダーが集まり、意見交換できるような住民同士の交流の場があればいい。均一に同じことをするのではなく、地域の特色を活かしたまちづくりをしていく。初めから大きなことはできないので、例えば3人からでも始めればいいのかと思う。まず協議会を立ち上げてそこから考えるやり方でいいのではないか。

【高取部会長】 「子育て支援」分野の指標が目標値からかけ離れている理由を知りたかったが、回答にある新型コロナウイルス感染症の影響はあまり関係ない気がする。

【事務局】 新型コロナウイルス感染症の影響は、3月のみの話である。民間で2つ拠点が立ち上がったが、指標としては市直営の利用者に限定してしまっていることで減少している。

【高取部会長】 民間に流れる理由がよく分からない。

【事務局】 近い場所にできたからそちらを利用する、などの理由が考えられる。

【藤尾委員】 以前、幼稚園に魚のさばき方などを教えに行っていたが、こども園になってからは断られる。断られる理由は「こども園になったから」という制度上の理由だった。ボランティア人数も減少しているが、ボランティアの活動の場も減っていることで悪循環である。

## No. 221 学校教育

【浅間委員】 新型コロナウイルス感染症の影響でリモート教育が進んだが、公立学校は遅れていると感じる。また、先生の負担も増えており、ハードが整ってもソフトがついていけない状況にある。並行して進める必要があると

感じる。

【事務局】 市としては予算をつけてスクールサポートスタッフを配置し、先生の負担軽減に努めている。また、ICT教育は英語教育と並んで力を入れている。今後、コミュニティスクールとして地域の方でICTに強い人にも協力いただきながら進めていきたいと考えている。

【藤尾委員】 学校教材を担当の先生が手作りしていることが理解しづらい。県の教育委員会がつくればいいのではないかと思う。国をあげて取り組んでもらいたい。

【高取部会長】 大学でも各教員にクオリティが委ねられている。器用な先生はいいが、ICTが苦手な人はうまくできないので、「教材をここまで読んでおいて」というスタンスになる。これに対して保護者からのバッシングもある。オンライン授業だと学生のリアクションが分からないことやグループワークができないという問題もある。今後、友達にも会えない状況の中、メンタルの問題が深刻になってくると思う。不登校も増えてくるのではないか。

【浅間委員】 国をあげての問題だと思う。公立学校を同じシステムにするなど考えなければならず、地方行政に任せていてはだめだと思う。いつ同じことが起こるか分からないし、何よりも鬱の問題が一番心配。

【事務局】 カウンセラーが、小学校は月に1回、中学校では週に1回全校を回っている。

【藤尾委員】 最近では、学校からの宿題が多く、親の能力などの差で挫折する家庭もある。色んな事情の家庭がある中で、国をあげてどうしていくか考える必要がある。新型コロナウイルス感染症への対策はもっと生駒市独自のやり方でやってもいいと思う。パフォーマンス性も感じられないので、市民を元気づけるような花火をあげてもらいたい。

【事務局】 数多くの独自の取組を打ち出している。

【藤尾委員】 お金の給付よりも、高齢者は心の不安を感じている。寂しい状況の中、「乗り越えよう」という声かけや優しさを求めている。今月の広報紙でSDGsの特集があったが、感染症対策もその中に入れたらいいのではないか。「みんなで乗り切ろう」という心に響くようなことを求めている。

【高取部会長】 大阪府の吉村知事は一体感を出そうとしている。コロナ禍の中、民間の

塾の方が柔軟に進んでいる実感がある。公立でも民間がやっていることをできればいいと思う。

## No. 222 青少年

【藤尾委員】 スマートフォンは便利で楽しいが、陰で事件が山ほどある。学校での使用が以前は認められていなかったが、安全面を考慮して認められる流れに変わってきている。子どもたちの方が大人より知識が豊富で、本当は子どもより先回りしなければならないのに後追いになっている現状がある。

【高取部会長】 大学でも問題になったことがあるが、「デジタルタトゥー」という表現がある。若気の至りで撮影した写真を一度でもSNS等にアップすると、後で消そうと思っても消せないことをタトゥーに例えたものである。新型コロナウイルス感染者も個人を特定しようとする人たちがいてとても恐ろしい。インターネットへの入り口は気軽だが、その怖さをもっと知らせめた方がよい。

【事務局】 今年は保護者と先生向けの開催となるが、例年、市内全校の児童・生徒のうち希望者を対象として「スマホサミット」を開催し、怖さを知ってもらう機会としている。

【高取部会長】 知らずにオレオレ詐欺の受け子になっている若者もあり、意外と身近にあるものだと感じている。ネットで情報を見つけ、本人はバイトと思い込んでやっている怖さもある。

【浅間委員】 「自立支援」分野に関し、60歳近くの生活に困っている引きこもりの人が顕在化している。これまでは親の年金で生活しており、周りには見えていなかった。親が隠すこともあるが、気づいたときには遅いこともあるので、ユースネットいこまのしくみで早く顕在化していくことが大切。親の過度な教育やプレッシャーが原因のケースもあるが、これまで働いていなかった人は60歳になって働くことはできない。

【藤尾委員】 生駒市は特にそのようなケースが多いと思う。中には、親の介護で就職機会を逃している人もいる。書面上は仕事をしていなかったのですが引きこもりにみられるが実際は親の介護をしており、兄弟姉妹からの理解も得られず相談を受ける事例も多々ある。50代では就職はできない。

【高取部会長】 不登校・ニート・引きこもりはそれぞれ別のものであり、一括りにはできない。

【藤尾委員】 昔は家業や家の田んぼ作業など家の中に仕事があり、必ずしも就職しなくてもいい状況だった。今は、昼間に近所を出歩いていると不審者として通報されるようなケースもあり、就職して働かなければならない時代になっている。色んな人がいてもいいし、地域で守っていかなければならない。

【高取部会長】 相手のことを知らないのが一番問題である。京都アニメーションの放火事件のように特殊な事例をマスコミが大きく報道することで刷り込みが生じている。

【浅間委員】 「向こう三軒両隣」とよく言うが、実際は人間関係が希薄になっており、現場とは乖離がある概念だ。自身も隣に住んでいる人のことも分からなかったのが民生委員を引き受けた。自治会加入者も減っている中、小さなコミュニティをどうつくっていくか、きめ細かな施策が必要である。

【藤尾委員】 マンション全体で自治会に加入しないところが沢山出てきており、例えばごみの出し方などでも統率を取れなくなっている。加入するかしないかは自由だ、という考え方はおかしいと思う。自治会費を払っている者が報われることはない。

【浅間委員】 自治会に入らなくてもごみは回収してもらえるため、役員をしたくないがために加入しない人が多い。不動産屋に自治会の情報を確認してから引っ越し人もいる時代である。自治会加入者とそうでない者とで何か差別化しないとまらない。

### No. 331 生涯学習

【藤尾委員】 自身はスポーツ推進員もしているが、軽スポーツのイベントを防災に関する催しと同時に実施して成功した経験がある。行政職員の弱い点は縦割り思考なところである。障がい者スポーツでも人が集まらないので、何かと合体して一つのイベントにすればいい。民間の知恵も借りながらもっと楽に人が集まるようにやり方を考える時代だと思う。

【事務局】 第6次総合計画から、細分野ごとに関連する他課の取組の記載を加え連携しやすい工夫をしている。

【藤尾委員】 健康課のウォーキングマップとそのイベントもボランティアと連携したことで良くなった。ボランティアも自分たちがつくった地図だから参加してみよう、という気になる。市民が入ってこそできることもあるので、人が絶えず集まる工夫をしてもらいたい。

【浅間委員】 高齢者に外に出てもらうためにも、例えばRAKU-RAKUはうすなどの施設で、70歳以上の利用者に価格優遇をしてもらいたい。生きいきクーポン券の財源があればできると思う。

【藤尾委員】 昔は無料だったが、有料になってから多くの活動団体がつぶれた。

【村上委員】 「図書館」分野について、鹿ノ台図書室でボランティアをしていたことがあるが、蔵書がとても古いと感じた。

【浅間委員】 希望を出せば新しい本を入れてもらえる。

【事務局】 蔵書数は他市と比べても多いが、人気の本は予約してから半年ほど掛かるケースもある。

【高取部会長】 電子書籍を導入してはどうか。そうすれば本の取り合いもない。

【事務局】 既に始めている。今後増えていくと思う。

#### No. 332 歴史・文化振興

【藤尾委員】 最近広報紙でもふるさとミュージアムのことをよく見かけるが、市役所の会議もそこですれば良いと思う。行ったことのない人がほとんどだと思うので上手に活用すればいい。

【事務局】 会議使用もできるし、選挙時の投票所としても活用している。

【高取部会長】 三密対策でイベントの開催はどのように対応しているのか。

【事務局】 大規模なものは中止で、開催しているものも消毒・換気対策などを取りながら実施している。市のガイドラインに基づき段階的に制限を緩和している状況である。

【事務局】 (庶務連絡、閉会宣告)

— 了 —